

戰史資料調查件一圓答

獨之混成第五旅團獨之步兵第三九三大隊



一 部隊名 獨之混成第五旅團獨之步兵第三九三大隊
一 部隊履歴 概要

昭和九年八月十五日滿洲國吉林省公主嶺ニ於テ編成
完結同年同月十八日編成地公主嶺出發 同月二十日
金山至同月二十七日金山出發 同月二十八日門司上陸九
月四日門司出發 同月十五日仲澤縣宮古支廳宮
古港灣至同月十八日伊良波島上陸 後伊良波島中
六月宮古島移駐 同島中 同年十一月二十五日
復員 宮古島出發 同月三十日 浦賀上陸

一 部隊長氏名

陸軍大尉

山口

繁永 (九月轉属)

0708

(指揮隷屬關係)

陸軍少佐

福永清(九月着任)

指揮關係

第三十八師團

隷屬關係

上陸より昭和三年五月迄第三十軍

及び第三十方面軍司令官(台湾)

一参加其主要作戰

天一號作戰(二級戦)

死傷

戦死 二名
戦傷死 二名

戦傷 五名

損耗 兵器

九五式短小銃若干被奪口受ケ名モ

修理ニ依支障ナシ

彈薬小銃彈七〇発

被服

ナシ

0709

一給養

主食 上陸以來終戦迄至食給養

糧秣 黒砂糖 二三四〇〇(三)梱

一五年九月伊良部島上陸以來二十年五月迄至食八月皇軍

六三〇五ヲ給養ルモ同島陸揚ガ運搬依ル糧秣減程又ハ

野積ニ依ル雨水等浸透依リ腐敗等損耗甚ク六三〇五

ヲ確保ス下瀬困難成リ特ニ二十年三月以降戦配薄ニ付

タル爲中隊炊事ニ逆リト同時ニ海岸防禦工事激進力多

ク其給養甚ク低下セリ

六月百官古島轉進ニ際シ糧秣輸送ヲ行ヒ結果夜間

ノ緊急輸送ナリタ玄米モ天甚ク雨ニテ玄米支持日數

ハ六三〇五ニ依ル九月米迄伏能カレタ七月百官リ三六〇五給

スニ至ル結果給養最悪伏能トナリ

而シテ食料米補充ハ西島ヨリ甘藷ヨリ南島共土地肥

沃ナク依リ現増産依リ産出量少ク又島民産出量僅少

0710

ナリ特ニ高島轉送ニ未駐地附近ノ島民ニ供出絶無ニテ殆
ト伊良島ヨリ自持物及供出ニ仰テ同島ヨリ運搬結果輸
送同亡失相當ニテ甘藷ニ依リ美食補充ハ頗ル少ク食量ニテ
日量一ロ瓦内外ナリ

終戦後似未從來ノ給食低下ニシテ樂ニ美食失調等ニ依リ
兵士健康悪化セリ又今後糧秣補充モ右ノ希論ヲ以テ
シタメ八月以降主食ラ四五ロ瓦ト又並詰其ノ他糧秣戰
用ニ使用可クセシテ給食漸ク向上スルニ至リ

而シテ八月以降伊良島部隊ノ残留部隊總數増倍ニ甘藷並
次恬憺化シタル多ク之日量ハ二ロ瓦以上トナル結果歸業
月日モ未定ナシ不安モアリ十月十日以降玄米日量四ロ瓦
トシテ現人ラ至ル

副食

伊良島高島共土月ヨリ三月迄ニ冬季間ニ除クノ外

0711

野菜に能無ニシテ野草類は殆ト草多ク野路の巾
固リ梅草類はむむりハツタ等ニシテ其大半ハ茅

茅ニシテ割食トシ居レリ

而シテ冬ニ至リ同ノ野菜大根白菜人参の心等ナシ

殆ト偽貨供出ニテ之カ量少ク也

又肉類ハ空殼衣等依リ便撈困難ニシテ之カ食用供

タルハ自置ナリ

獸肉類ハ偽貨ヨリ自置上カト現地自活ニ依ルモ則チ豚山羊

等ニシテ本年六月以降日置一口瓦内外トナリ

衛生

昭和九年九月十八日伊良部島上陸以來氣候風土ニ全ク敵

変見南海離島ニ在リテ宿營給食良状態極多不

良カ悪環境下ニ在リテ日夜陣地構築中作業從事

シタル所補給断絶ニシテ部隊宿營休養良状態極多不

悪ク幸ニテ雨露ヲ侵シ程カハ甚隘ル地草屋ニ露宿

0712

シ美食減少其之が故用食は甘藷取極得意如うす副
 食量多野菜肉 魚共多僅分野菜又食えんす兵
 員作重日減少各状態心す所 昭和五年六月十日
 備ニ轉進スルヤ 宿營地附近ハ「マリア」ノ 懐胎を地帯ニシテ
 約半數「マリア」ニ惟患シ熱帯性下腹痛瘡の患者ニ百三
 名有身即數ノ心在生見タリ 毎月新患者發生數ハ平
 均九十七名ニシテ部隊保有事務は僅少ニシテ補給全クノ
 恒弊ニ支障ヲ来シ糧秣 益々乏乏シ主食米白米一日三〇
 五ニ減少兵食量量一五レカカリ一平ニテ保持出
 來得ニ程不ニシテ業業食欠調在患者続々發シ全ク憂
 慮ハスルハ能ハナリ

一 終戦より歸還迄の行動

八月五日終戦と同時に沿岸維持武器奉還後方自活
 作業に従事専ラ体力保持増進努力中帰業命令
 下更ケ上月三日 米船ニ依リ宮古島出立同日三日 浦賀
 上陸セリ

0713